

1月20日、当所職員を対象に飯田市南信濃の「小嵐川」^{こおろしがわ}で国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所が実施している「天竜川水系小嵐第3砂防堰堤工事」^{さぼうえんてい}の工事現場を視察しました。

砂防・治山事業連絡調整会議等の場において『お互いの工事現場を視察してみたい』との話から、同事務所から程野山(ほどのやま)国有林(飯田市上村(いいだしかみむら))で令和2年7月に土石流被害のあった『蛇洞沢(じゃぼらさわ)を視察したい』との要望があり、当所が実施している「蛇洞沢2復旧治山工事」において、昨年11月28日に若手職員を対象とした視察を実施したことから、双方の工事現場の視察が実現したものです。

砂防工事施工会社の現場代理人から、コンクリート打設等の施工方法やリングネット工による安全対策について説明いただき、同事務所の職員から『林野庁で施工する治山工事でのコンクリート強度や配合比は?』『コンクリートポンプ車による打設も行うのか?』といった質問がありました。工事規模は異なるもののコンクリート配合比や打設方法はほとんど変わらないことを実感しました。

砂防工事現場は静岡県境の歴史ある秋葉(あきは)街道の難所となっている「青崩(あおくずれ)峠」や長野県側の青崩国有林で施工した「山腹工」を眺望できる場所にあります。また、周辺ではリニア中央新幹線関連工事や昨年十月に「青崩トンネル(仮称)」が貫通した三遠南信自動車道(さんえんなんしんじどうしゃどう)の延伸工事が行われています。このためコンクリートの需要が極めて高い状況から、各工事の進捗管理への影響や、「中央構造線」の軟弱な地質構造地帯のため高度な施工技術が不可欠であるとともに、豪雨等による被災を受けやすいため、日々苦闘しながら工事を行っていることが共通の認識であると感じました。



伊那谷を襲った「三六災害」から六十年以上経過していますが、地域からの砂防治山事業実施の要望は大きく、今後も「流域治水」の取組として連携した現場視察を継続できればと考えています。